

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
1975年1月1日から2017年5月29日の間に  
病理解剖または病理組織保管を受けた方の御家族へ

「FUS/TLS 遺伝子変異 (R521S) を認めた筋萎縮性側索硬化症の  
親子剖検例の病理学的研究」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者  
国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科医長 原口 俊  
東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク 高田忠幸  
研究分担者 国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科医長 田邊康之  
東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク 藤ヶ崎純子  
東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク 村山繁雄

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

私たちは、FUS/TLS 遺伝子変異 (R521S) を認めた筋萎縮性側索硬化症について脳病理所見と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。そのために、既にお亡くなりになって、その際に病理解剖された患者さんの、脳組織試料、及び症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経の機能障害に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討します。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、FUS/TLS 遺伝子変異 (R521S) のある筋萎縮性側索硬化症のより正確な臨床診断に役立つ情報を得る事で、早期診断と治療の早期開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、1975年1月1日から2017年5月29日までの間に病理解剖され、剖検組織が保管された方。

### 2) 研究期間

2016年7月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

既にお亡くなりになり、その際に病理解剖された患者さんの脳組織試料、症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経変性に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討し、症状や検査結果の対比を行います。

また、非常に専門性の高い解析が必要な場合は香川大学神経難病講座 鎌田正紀医師、香川大学医学部神経内科 出口一志医師、きのこエスポアール病院 横田 修医師と追加的な病理学的、生化学的、遺伝子学的検討を共同して行います。

#### 4) 使用する試料

病理解剖を行い診断したあと保管している脳・脊髄・心筋・副腎・腸管・皮膚等の組織。氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### 5) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、副作用等の発生状況、各種検査結果。

#### 6) 外部への試料・情報の提供

本研究では、他の研究を行う外部の機関への試料・情報の提供は行われません。

#### 7) 試料・情報の保存、二次利用

研究終了後、残った試料は提供元施設に返還されます。また、情報については研究終了後に廃棄します。

#### 8) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としませんので、2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
1924年1月1日から2017年5月29日の間に  
病理解剖または病理組織保管を受けた方の御家族へ

「嗜銀顆粒病 (AGD)と進行性核上性麻痺 (PSP) の関連性における  
臨床病理学的研究」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 岡山大学大学院精神神経病態学教室  
国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員  
きのこエスポール病院 三木知子  
研究分担者 岡山大学大学院精神神経病態学教室 教授 山田了士  
岡山大学大学院精神神経病態学教室 准教授 寺田整司  
岡山大学医学部(精神神経病態学) 客員研究員  
国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員  
きのこエスポール病院副院長・岡山県認知症疾患センター長 横田 修  
国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科 原口 俊  
国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科 田邊康之  
慈圭病院 石津秀樹  
慈圭病院 黒田重利

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

私たちは、嗜銀顆粒病 (argyrophilic grain disease: AGD) と進行性核上性麻痺 (progressive supranuclear palsy: PSP) について脳病理所見と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。そのために、既にお亡くなりになって、その際に病理解剖された患者さんの、脳組織試料、及び症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経の機能障害に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討します。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、認知症疾患のより正確な臨床診断に役立つ情報を得る事で、早期診断と治療の早期開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、1924年1月1日から2017年5月29日までの間に病理解剖され、剖検組織が保管された方。

### 2) 研究期間

2016年1月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

既にお亡くなりになり、その際に病理解剖された患者さんの脳組織試料、症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経変性に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討し、症状や検査結果の対比を行います。また、非常に専門性の高い解析が必要な場合は新潟大学脳研究所脳疾患標本資源解析学分野 柿田明美教授、新潟大学脳研究所 遺伝子機能解析学分野 池内健教授、国立病院機構東名古屋病院 饗場郁子神経内科医長、愛知医科大学加齢医学研究所 吉田眞理教授、東京都医学研究所認知症プロジェクト 長谷川成人参事研究員と追加的な病理学的、生化学的、遺伝子学的検討を共同して行います。

### 4) 使用する試料

病理解剖を行い診断したあと保管している脳・脊髄・心筋・副腎・腸管・皮膚等の組織。

氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

### 5) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、副作用等の発生状況、各種検査結果。

### 6) 外部への試料・情報の提供

本研究では、他の研究を行う外部の機関への試料・情報の提供は行われません。

### 7) 試料・情報の保存、二次利用

研究終了後、残った試料は提供元施設に返還されます。また、情報については研究終了後に廃棄します。

### 8) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としませんので、2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
1924年1月1日から2017年5月29日の間に  
病理解剖または病理組織保管を受けた方の御家族へ

「嗜銀顆粒病、軽度の進行性核上性麻痺病理、TypeA TDP-43 病理を有した  
筋萎縮性側索硬化症(ALS)の一部検例の検討」  
へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 岡山大学大学院精神神経病態学教室  
国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員  
きのこエスポール病院 三木知子  
研究分担者 岡山大学大学院精神神経病態学教室 教授 山田了士  
岡山大学大学院精神神経病態学教室 准教授 寺田整司  
岡山大学医学部(精神神経病態学) 客員研究員  
国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員  
きのこエスポール病院副院長・岡山県認知症疾患センター長 横田 修  
国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科 原口 俊  
国立病院機構 南岡山医療センター 神経内科 田邊康之  
慈圭病院 石津秀樹  
慈圭病院 黒田重利

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

私たちは、筋萎縮性側索硬化症について脳病理所見と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。そのために、既にお亡くなりになって、その際に病理解剖された患者さんの、脳組織試料、及び症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経の機能障害に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討します。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、認知症疾患のより正確な臨床診断に役立つ情報を得る事で、早期診断と治療の早期開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、1924年1月1日から2017年5月29日までの間に病理解剖され、剖検組織が保管された方。

### 2) 研究期間

2015年9月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

既にお亡くなりになり、その際に病理解剖された患者さんの脳組織試料、症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経変性に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討し、症状や検査結果の対比を行います。また、非常に専門性の高い解析が必要な場合は新潟大学脳研究所脳疾患標本資源解析学分野 柿田明美教授、新潟大学脳研究所 遺伝子機能解析学分野 池内健教授、国立病院機構東名古屋病院 饗場郁子神経内科医長、愛知医科大学加齢医学研究所 吉田眞理教授、東京都医学研究所認知症プロジェクト 長谷川成人参事研究員と追加的な病理学的、生化学的、遺伝子学的検討を共同して行います。

### 4) 使用する試料

病理解剖を行い診断したあと保管している脳・脊髄・心筋・副腎・腸管・皮膚等の組織。氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

### 5) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、副作用等の発生状況、各種検査結果。

### 6) 外部への試料・情報の提供

本研究では、他の研究を行う外部の機関への試料・情報の提供は行われません。

### 7) 試料・情報の保存、二次利用

研究終了後、残った試料は提供元施設に返還されます。また、情報については研究終了後に廃棄します。

### 8) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としませんので、2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
1924年1月1日から2017年5月29日の間に  
病理解剖または病理組織保管を受けた方の御家族へ

「歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症（DRPLA）4症例の遺伝子診断と臨床病理学的研究」

へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 岡山大学医学部（精神神経病態学）客員研究員  
国立病院機構南岡山医療センター 客員研究員  
きのこエスポール病院副院長・岡山県認知症疾患センター長 横田 修  
研究分担者 岡山大学大学院精神神経病態学教室 准教授 寺田整司  
岡山大学医学部（精神神経病態学）客員研究員 長尾茂人

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

私たちは、歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症（DRPLA）について脳病理所見と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。そのために、既にお亡くなりになって、その際に病理解剖された患者さんの、脳組織試料、及び症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経の機能障害に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討します。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、認知症疾患のより正確な臨床診断に役立つ情報を得る事で、早期診断と治療の早期開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、1924年1月1日から2017年5月29日までの間に病理解剖され、剖検組織が保管された方。

### 2) 研究期間

2013年9月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

既にお亡くなりになり、その際に病理解剖された患者さんの脳組織試料、症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経変性に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討し、症状や検査結果の対比を行います。また、遺伝子変異の内容を確認するため愛

媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座 上野修一教授と遺伝子学的検討を共同して行います。

#### 4) 使用する試料

病理解剖を行い診断したあと保管している脳・脊髄・心筋・副腎・腸管・皮膚等の組織・氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### 5) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、副作用等の発生状況、各種検査結果。

#### 6) 外部への試料・情報の提供

本研究では、他の研究を行う外部の機関への試料・情報の提供は行われません。

#### 7) 試料・情報の保存、二次利用

研究終了後、残った試料は提供元施設に返還されます。また、情報については研究終了後に廃棄します。

#### 8) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としませんので、2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-482-3883



国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
1924年1月1日から2017年5月29日の間に  
病理解剖または病理組織保管を受けた方の御家族へ

「Argyrophilic grain disease (AGD) と progressive supranuclear palsy (PSP) の  
関連性における臨床病理学的研究」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 岡山大学医学部 (精神神経病態学) 客員研究員  
国立病院機構南岡山医療センター 客員研究員  
きのこエスポアール病院副院長・岡山県認知症疾患センター長 横田 修  
研究分担者 岡山大学大学院精神神経病態学教室 准教授 寺田整司  
岡山大学医学部 (精神神経病態学) 客員研究員 池田智香子

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

私たちは、嗜銀顆粒病 (argyrophilic grain disease: AGD) と進行性核上性麻痺 (progressive supranuclear palsy: PSP) について脳病理所見と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。そのために、既にお亡くなりになって、その際に病理解剖された患者さんの、脳組織試料、及び症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経の機能障害に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討します。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、認知症疾患のより正確な臨床診断に役立つ情報を得る事で、早期診断と治療の早期開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、1924年1月1日から2017年5月29日までの間に病理解剖され、剖検組織が保管された方。

### 2) 研究期間

2013年7月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

既にお亡くなりになり、その際に病理解剖された患者さんの脳組織試料、症状、血液検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて神経変性に重要な役割を果たす蛋白の異常蓄積、関係する遺伝子の状態、蛋白の生化学的性状を検討し、症状や検査結果の対比を行います。また、非常に専門性の高い解析が必要な場

合は新潟大学脳研究所脳疾患標本資源解析学分野 柿田明美教授, 新潟大学脳研究所 遺伝子機能解析学分野 池内健教授, 国立病院機構東名古屋病院 饗場郁子神経内科医長, 愛知医科大学加齢医学研究所 吉田眞理教授, 東京都医学研究所認知症プロジェクト 長谷川成人参事研究員と追加的な病理学的, 生化学的, 遺伝子学的検討を共同して行います.

#### 4) 使用する試料

病理解剖を行い診断したあと保管している脳・脊髄・心筋・副腎・腸管・皮膚等の組織.

氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します. また, あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います.

#### 5) 使用する情報

年齢, 性別, 病歴, 症状, 治療歴, 副作用等の発生状況, 各種検査結果.

#### 6) 外部への試料・情報の提供

本研究では, 他の研究を行う外部の機関への試料・情報の提供は行われません.

#### 7) 試料・情報の保存, 二次利用

研究終了後, 残った試料は提供元施設に返還されます. また, 情報については研究終了後に廃棄します.

#### 8) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば, 個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で, この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので, お申し出ください. 内容についておわかりになりにくい点がありましたら, 遠慮なく担当者にお尋ねください.

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして, 学会や論文で発表しますので御了解ください.

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで, お問い合わせ下さい. また, 対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としないので, 2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください. この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません.

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者: 管理課 竹歳 満

電話: 086-482-1121 (平日: 8時30分~17時15分)

ファックス: 086-482-3883

—平成 24 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日の期間に  
呼吸器外科で手術を受けられた患者様へ—

「呼吸器外科手術成績の向上を目指した多施設共同データベースの構築」  
へのご協力のおお願い

研究機関名：国立病院機構南岡山医療センター

研究責任者：国立病院機構南岡山医療センター 呼吸器外科医長 牧原重喜

## 1. 研究の意義と目的

医学・医療の進歩のためには様々な研究が必要ですが、経験した症例を解析することによって得られる知識が重要となる場合が多く認められます。経験した症例から新しい知識を得るためには良質なデータベースが必要であり、特に稀な疾患、さらには経験の少ない治療法の解析には症例数も重要となることがあります。

しかしながら、ひとつの施設での検討では、十分な症例数を集めるには長期間かかることもあり、新しいエビデンスを確立することが困難なことも多く認められます。そのため多くの施設と協力して統一データベースを構築しておくことは、解析が速やかに実行可能となり、医学の進歩に有用であると考えられます。このような現状を考えて、エビデンスレベルの高い外科治療を行うために、我々は呼吸器外科手術症例に対する多施設共同の統一データベースを作成することとしました。

本研究の目的は、中国四国を中心とした、肺癌など胸部悪性疾患・自然気胸・胸腺腫・膿胸などに対する呼吸器外科手術の多施設統一データベースを作成し、呼吸器外科手術の治療成績について検討できる環境をつくることです。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象：

原発性肺癌・転移性肺癌・悪性胸膜中皮腫・自然気胸などの胸部疾患に対して中四国関連病院で手術を受けた患者様 7000 名を対象としており、国立病院機構南岡山医療センターにて手術を受けられた方を含みます。

### 2) 調査期間：

平成 24 年 1 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日

### 3) 研究方法：

平成 24 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日までの間に、国立病院機構南岡山医療センターや岡山大学病院及びその中四国関連病院において手術を受けられた患者様について、研究者が診療情報（カルテ）をもとに患者情報（採血・呼吸機能検査データ、肺癌の進行度）、治療方法、予後などについてのデータを収集します。

（岡山大学呼吸器・乳腺内分泌外科 <http://www.nigeka-okayama-u.jp/>）

### 4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。年齢、性別、家族歴、既往歴、診察所見、治療内容、臨床データ（喫煙指数、各種血液データ、呼吸機能検査、使用した薬剤、手術方法や手術時間、術後の合併症、手術切除標本の病理組織データ、治療成績など）を収集します。

## 5) 情報の保護 :

調査情報はデータベースを管理する岡山大学病院内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承が得られない場合には研究対象とはしませんので、平成33年3月31日までの間に下記連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。この期間中にお申し出がなければご了解を得たものと判断させていただきます。

## <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

## 当院気管支喘息専門外来でのチーム医療による取組み

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 国立病院機構 南岡山医療センター 谷本 安  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 薬剤部 大石沙織  
共同研究者 国立病院機構 南岡山医療センター 看護部 黒岡昌代

### 1. 研究の対象

平成 26 年 4 月～ 気管支喘息専門外来を受診された方

### 2. 研究の期間

平成 29 年 6 月 19 日～平成 30 年 3 月 31 日

### 3. 研究目的・方法

気管支喘息治療においては吸入ステロイドを主体とした長期管理が中心となります。

良好なコントロール状態を維持するためには、患者さん自ら治療に納得し積極的に治療を受け、正しい吸入手技を習得することが重要です。

平成 26 年 4 月より追加検査や指導等が必要と判断された患者さんを対象にし、気管支喘息専門外来を開始し、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等がチームで関わっています。

この取組みで得られたデータを収集して評価し、学会等で発表を行います。

### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、薬歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

### 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

2002年10月15日から2005年7月31日の間に

岡山肺癌治療研究会 0007 試験

「局所進行期非小細胞肺癌に対するマイトマイシン+ビンデシン+シスプラチン+同時胸部放射線療法とシスプラチン+ドセタキセル+同時胸部放射線療法の生存期間を比較する第3相試験」

にご協力いただいた方へ

「局所進行非小細胞肺癌における分子マーカーと化学放射線療法の有効性との関連性の検討」  
へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 呼吸器・アレルギー内科 田中寿明  
研究分担者 国立病院機構 南岡山医療センター 呼吸器・アレルギー内科 濱田 昇

1. 研究の目的

岡山肺癌治療研究会(OLC)において、局所進行期非小細胞肺癌に対するマイトマイシン+ビンデシン+シスプラチン+同時胸部放射線療法とシスプラチン+ドセタキセル+同時胸部放射線療法の生存期間を比較する第3相試験(0007試験)が実施されました。

本研究の目的は、0007試験に登録された症例の腫瘍検体を用いて、腫瘍細胞における分子マーカー発現(EGFR遺伝子変異・ALK融合遺伝子, thioredoxin, GSTP1, Ki-67, FOXM1, TXR1, TSP1 蛋白発現)とマイトマイシン+ビンデシン+シスプラチン+同時胸部放射線療法およびシスプラチン+ドセタキセル+同時胸部放射線療法の効果・副作用との関係を調べることです。

2. 研究の方法

1) 研究対象:

上記0007試験に登録された患者さま200人を対象とします(本センターの対象患者様9人)。

2) 研究期間:

平成27年4月開催の倫理委員会承認後から平成31年12月31日まで

3) 研究方法:

本研究は岡山肺癌治療研究会における多施設共同研究で、0007試験に登録された患者さまを対象とし、研究者がカルテから抗がん剤と放射線の効果・毒性に関するデータを抽出します。年齢、性別、家族歴、既往歴、診察所見、使用抗癌剤名、血液検査、画像診断、病理学検査、組織のデータを使用いたします。

また、各患者さまの腫瘍細胞(診断時に保存された腫瘍細胞)の上記分子マーカー発現を主に免疫組織染色を用いて解析し、最終的に0007試験で用いられた上記治療の効果・毒性との関係を明らかにします。

4) 調査票等:

上記情報を抽出し、腫瘍細胞における分子マーカー発現の解析は株式会社ピーシーエルジャパンで行いますが、患者さまの個人情報(年齢、性別、家族歴、既往歴、診察所見、血液検査、画像診断、病理学検査、組織)は削除の上、匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### 5) 情報の保護および個人情報の開示:

調査情報は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科血液・腫瘍・呼吸器内科内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

また検体は解析終了後、研究事務局で本研究終了後5年間保管の後、適切に廃棄します。

研究結果は個人を特定できない形で関連の学会、インターネットおよび論文にて発表する予定です。

また研究結果の開示についてはご希望される患者さま本人と本人の同意を条件にご家族へ開示します。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象に致しませんので、平成29年6月30日までの間に下記の連絡先までお申し出下さい。この場合も診察など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。この期間中お申出がなければご了解を得たものと判断させていただきます。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

当院において、2017年1月に小児科外来にて  
在宅指導管理料の算定を受けた方のご家族へ

— 「中四国地域の在宅にて医療的ケアを要する子供の実態調査」へご協力をお願い—

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究責任者 南岡山医療センター 小児神経科 井上美智子

1. 研究の概要

1) 研究の目的および意義 本研究により、小児在宅医療の状況を知ることができることから、地域における医療支援の在り方を協議することができます。さらに、現在の小児在宅医療の問題点が明らかになり、地域の医療サービスの提供を見直すことが可能になります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

平成29年1月に当院を含め、中四国の小児科、小児神経科、小児外科外来を受診し、在宅指導管理料の算定を受けた方。

2) 研究期間

平成28年9月1日～平成29年9月31日

3) 研究方法

本研究は中国・四国小児科医会の多施設共同研究で、研究者が診療報酬明細書から上記対象者を抽出し、対象者の年齢、居住地（市、郡、町までの情報）、在宅指導管理料及び加算の種別のデータを集計します。

なお、上記の情報以外の個人を特定できる情報はすべて消去し、集計に利用いたしません。

4) 外部への情報提供

上記集計内容について、中国・四国小児科医会において共有し、小児科関連の学会にて報告いたします。また、中国四国の行政に対しても小児在宅医療の施策についての情報として提供いたします。

5) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族よりご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障のない範囲内で、研究計画書の情報を提供いたします。また、本研究の内容に不明な点等ご質問がありましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

なお、対象となるご家族の情報が本研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、平成29年6月30日までに下記連絡先までお申し出ください。この場合も、診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）

ファックス：086-482-3883



国立病院機構南岡山医療センターにおいて  
神経筋疾患病棟で超音波検査を受けられた方へ

「神経筋疾患入院患者におけるスクリーニングエコー検査の有用性の研究」

「長期臥床における腹部超音波検査の有用性に関する研究」

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 高松 泉  
国立病院機構 南岡山医療センター 西山ちとせ

1. 研究の背景および目的

神経筋疾患入院患者さんの検査所見及び臥床期間、検体検査結果、画像検査結果等の臨床情報を用いて、臨床特徴の関連を検討し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、2015年6月から神経筋疾患病棟にて超音波検査を受けられた方。

2) 研究方法

超音波検査結果を分析し病態やその他の検査結果との対比を行います。

3) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、病歴（呼吸器使用状況、栄養摂取形態、臥床期間を含む）、生化学・血液・一般検査結果、超音波検査結果、CT・MRI検査結果。

3. お問い合わせ先

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター  
担当者：管理課 竹歳 満  
電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）  
ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
2015年3月1日から2016年1月31日の間に  
呼吸機能検査を受けられた方へ

「オシレーション法における義歯の影響に関する検討」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 臨床検査科 高松 泉

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

肺機能検査の一つに呼吸抵抗測定があり、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患の肺機能検査評価法として利用されています。安静換気で測定できる利点と共に、呼吸器疾患以外の因子も影響を与えることが知られています。

本研究の目的は、義歯装着、義歯未装着が呼吸抵抗測定に及ぼす影響について検討しました。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、2015年3月1日から呼吸抵抗測定を受けられた方のうち、義歯装着の着脱が可能であった方。

### 2) 研究方法

呼吸抵抗測定検査を義歯装着、義歯未装着にて検査を行い、患者様から得られた情報や検査結果との対比を行います。

### 3) 使用する情報

年齢、性別、体格（身長、体重）、病歴（喫煙指数）、呼吸抵抗測定検査結果。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

## 3. お問い合わせ先

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター  
担当者：管理課 竹歳 満  
電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）  
ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
2002年1月1日から2011年12月30日の間に  
化学物質負荷試験検査を受けた方へ

「化学物質負荷試験を施行した化学物質過敏症、シックハウス症候群疑いの患者データの解析」  
へのご協力のお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員 山中隆夫  
共同研究者 国立病院機構 南岡山医療センター 統括診療部長 木村五郎

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

シックハウス症候群や化学物質過敏症は現代社会において大きな問題となっており、室内の化学物質濃度基準以下の有機化合物濃度以下であっても過敏に反応して種々多様な症状がおられることが知られています。

しかし、疾患特異的な他覚的検査結果が多くはなく診断自体も困難であることが多く、十分に明らかにされていません。

そのため私たちは、シックハウス症候群や化学物質過敏症疑いの患者さんに当院で診療のため行ってきた、化学物質負荷試験検査等の結果と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、シックハウス症候群や化学物質過敏症のより正確な臨床病態に役立つ情報を得る事で、診断と早期治療の開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、2002年1月1日から2011年12月30日までの間に終夜ポリソムノグラフィー検査をされた方。

### 2) 研究期間

2016年4月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

当院を受診されクリーンルームで化学物質負荷検査をされた患者さんの症状、化学物質負荷検査、アンケート結果等の臨床情報を用いて化学物質過敏症およびシックハウス症候群に重要な役割を果たす病態を検討し、症状や検査結果の対比を行います。

### 4) 使用する試料

クリーンルームで化学物質負荷試験検査を行なったあと氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定で

きる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### 5) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、合併症等の発生状況、各種検査結果、アンケート結果。

#### 6) 試料・情報の保存、二次利用

研究終了後、情報については廃棄します。

#### 7) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
2009年1月1日から2017年4月30日の間に  
終夜ポリソムノグラフィー検査を受けた方へ

「睡眠時無呼吸症候群および同疾患疑い患者の後ろ向き観察研究」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員 山中隆夫  
共同研究者 国立病院機構 南岡山医療センター 統括診療部長 木村五郎

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

睡眠障害は現代社会において大きな問題となっており、日本人の5人に1人が何らかの睡眠に関する問題を抱えていると言われていています。とりわけ、睡眠時無呼吸症候群は、高血圧、心筋梗塞、脳卒中など生活習慣病から引き起こされる原因のひとつとして患者さんの健康に悪影響をおよぼすことはもちろん、慢性で本人が気づかないでも昼間の眠気などから交通事故にあたり、仕事の計がいかない等社会的な問題も生じています。

睡眠時無呼吸症候群は肥満者に多い、と言われており海外でも多くの報告がありますが、日本においては、肥満者でなくてもかなり多くの方が睡眠時無呼吸症候群に罹っているようですが、あまり具体的に検討されていません。そのため私たちは、睡眠時無呼吸症候群やその疑いのある方について終夜ポリソムノグラフィー検査等と臨床特徴の関連を解析し、臨床診断の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、睡眠時無呼吸症候群のより正確な臨床病態に役立つ情報を得る事で、診断と早期治療の開始に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、2009年1月1日から2017年4月30日までの間に終夜ポリソムノグラフィー検査をされた方。

### 2) 研究期間

2017年5月倫理委員会承認後～2020年6月30日

### 3) 研究方法

当院を受診され終夜ポリソムノグラフィー検査をされた患者さんの症状、終夜ポリソムノグラフィー検査、画像検査、血液検査等の臨床情報を用いて睡眠時無呼吸症候群に重要な役割を果たす病態を検討し、症状や検査結果の対比を行います。

### 4) 使用する試料

終夜ポリソムノグラフィー検査を行い診断したあと氏名・生年月日・住所などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### 5) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、合併症等の発生状況、各種検査結果。

#### 6) 試料・情報の保存、二次利用

研究終了後、情報については廃棄します。

#### 7) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで、お問い合わせ下さい。また、対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

#### <お問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者：管理課 竹歳 満

電話：086-482-1121（平日：8時45分～17時15分）

ファックス：086-482-3883

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、  
2000年1月1日から2016年3月31日の間に  
関節リウマチで肺結核の治療を受けられた方へ

「結核に罹患した関節リウマチ患者患者における治療が及ぼす影響の研究」へのご協力をお願い

研究機関名 国立病院機構 南岡山医療センター  
研究機関長 谷本 安  
研究責任者 国立病院機構 南岡山医療センター 客員研究員 山中隆夫  
共同研究者 国立病院機構 南岡山医療センター 統括診療部長 木村五郎

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

関節リウマチに肺結核を合併すると、治療自体が相反することが多く、一部の方には免疫再構築症候群と呼ばれる、肺結核の治療のためリウマチの治療を弱めたため状態が悪化してしまう病態も知られています。

しかし、関節リウマチの患者さんで肺結核を合併する方は、患者さんの数自体も少ないことから十分に明らかにされていません。

そのため私たちは、関節リウマチに罹患されるも肺結核に罹られた患者さんの治療経過および病状変化、検査等の結果の関連を解析し、臨床診断及び治療の精度向上に役立つ知見を得る事を目的とした研究を行います。この研究では患者さんの氏名、病院のID、住所、電話番号などの情報が外部に出る事はなく、その他の個人情報もプライバシーに十分配慮して扱われます。またこの研究の結果は氏名・生年月日などの個人を直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表されます。本研究は当院の倫理委員会から承認を得ています。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

本研究は、関節リウマチ患者さんで肺結核に罹患した方のより正確な臨床病態に役立つ情報を得る事で、診断と治療の選択に寄与します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

国立病院機構南岡山医療センターにおいて、2000年1月1日から2016年3月31日までの間に当院で関節リウマチを罹患されるも肺結核の治療をされた方。

### 2) 研究期間

2016年3月倫理委員会承認後～2020年3月31日

### 3) 研究方法

当院を受診された関節リウマチ患者さんのうち肺結核に罹患された患者さんの症状、喀痰検査、血液結果等の臨床情報を用いて、肺結核治療と関節リウマチの治療がお互いに及ぼす重要な役割を果たす病態を検討し、症状や検査結果の対比を行います。

### 4) 使用する情報

年齢、性別、病歴、症状、治療歴、合併症等の発生状況、各種検査結果。

#### 5) 試料・情報の保存, 二次利用

研究終了後, 情報については廃棄します。

#### 6) 研究計画書および個人情報の開示

ご家族より御希望があれば, 個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で, この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので, お申し出ください。内容についておわかりになりにくい点がありましたら, 遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名・生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして, 学会や論文で発表しますので御了解ください。

この研究に御質問等がありましたら下記の連絡先まで, お問い合わせ下さい。また, 対象となる御家族の試料・情報が研究に使用されることについて御了承いただけない場合には研究対象としませんので, 2020年3月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

国立病院機構 南岡山医療センター

担当者: 管理課 竹歳 満

電話: 086-482-1121 (平日: 8時45分~17時15分)

ファックス: 086-482-3883